



新城 哲 議員

子供の貧困対策支援員について

質 子供の貧困対策支援員の配置と取り組み状況について伺う。

答 学校教育課長（仲村泰弘）

本村には小学校にSSW（スクールソーシャルワーカー）として2名配置しています。安富祖小、恩納小に1名、仲泊小、山田小に1名の支援員で2校を兼務しているところです。学校での問題、課題を抱える児童の置かれた環境への働きかけであったり、関係機関とのネットワークの構築、また学校でチームとして取り組む体制づくり等に関わっています。

質 通常の場所で支援が難しい子供たちへの生活指導や学習支援、拠点型子供の居場所の整備について伺う。



當山 直彦 議員

緊急医療情報キットの導入及び緊急時情報の共有について

質 在宅において独居高齢者などが救急搬送される際、救急隊への状況説明が困難なケースが予想される中で当局としてはどのような対処方法を検討しているのか伺う。

答 福祉課長（石川司）

金武地区消防衛生組合との救急搬送時の情報共有手段の方策を協議、検討していきたいと思えます。

質 嘉手納町で導入している緊急医療情報キットを導入する予定はあるのかを伺う。

答 福祉課長（石川司）

先進地域の情報収集を現在行っています。導入に向けて各市町村の状況

答 福祉課長（石川司）

子供の居場所については、国のこども家庭庁により令和5年12月に、子供の居場所づくりに関する指針というのが閣議決定され、地方公共団体における推進体制と定義づけられているのが、地域の実情に合った関係者が連携協力して体制を構築することが期待されています。福祉の部門においての子供の居場所の運営支援の情報等は現在のところありませんが、福祉課に情報提供を願えれば、その対応をしていきたいと思えます。拠点型子供の居場所の整備については、手厚い支援を必要とする子供に対応できる拠点型子供の居場所の整備計画は現在行われていません。村内事業所には現在対応ができない状況にあり、今後、空いた保育施設等も含め活用して、学校以外の場所でのサービス提供を視野に入れた施設の整備を関係部署と協議調整を行っていききたいと思えます。

質 若年妊産婦の居場所の整備について伺う。

答 健康保険課長（新里勝弘）

若年妊産婦については、妊娠届時に困っていることはないか。生活環境、出産後の養育環境など聞き取りを行い、その後、妊婦訪問、両親学級等で継続的に関わっているところです。出産後におきましては、新生児訪問や産後ケア、育児学級、乳児検診等で継続的に支援を行っています。沖縄県若年妊産

も踏まえて検討を行っていただければと考えています。

質 緊急医療情報キットと災害時個別支援計画、防災アプリの記載内容に統一性や連動性を持たせるため、横断的に取り組むことはできないか当局の見解を伺う。

答 福祉課長（石川司）

内容及び登録対象者については関係機関と協議調整中であり、必要な部分については各関係機関、各部署と連携を図っていききたいと思えます。

質 金武地区消防との情報共有は重要課題で管轄の町村の担当課とも連携が必要です。緊急医療情報キットの書式統一に向けての当局の見解を伺う。

答 福祉課長（石川司）

金武地区消防衛生組合及び同消防組合が管轄している恩納村、宜野座村、金武町と協議を行って、統一した様式運用を検討します。



▲緊急医療情報キット

婦居場所運営支援事業へつなげていくケースもあるかと考えています。

通学かばんランドセルについて

質 村の取り組み状況を伺う。

答 学校教育課長（仲村泰弘）

村立4小学校で次年度の入学説明会は既に行われています。その際配布した資料の中に、全ての小学校でランドセルと表記されているところです。ただし説明資料で諸注意に「特に指定はありません」や、それに代わるものと表記されている小学校や、説明会の補足説明でランドセルを推奨であること等を伝えた小学校もあります。相談があればランドセル以外の対応も考えていると、学校教育課としては、次年度以降開催される入学説明会の中で、保護者にその部分をしっかりと説明し理解していただくよう学校に周知をしていきたいと考えています。

健康づくり活動の担い手育成について

質 若石リフレクソロジーという健康法の資格者が村内に13名ほどいます。

アルコール依存症について

質 沖縄県のアルコール健康障害について現状を伺う。

答 健康保険課長（新里勝弘）

国民健康栄養調査によると沖縄県は生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている割合は男女とも全国より高く、未成年者の飲酒している割合も高い。他県に比べアルコールが原因による肝疾患が多く、死亡率も男性が全国ワースト1位、女性はワースト2位です。

質 恩納村におけるアルコール依存症の現状と対策を伺う。

答 福祉課長（石川司）

アルコールで自立支援医療に結びついている対象者は14人。対策としては地域からの情報や家族等からの相談により本人、その家族へアルコール依存に対する治療を促し、関係機関や医療機関へ繋いでいます。

質 アルコール問題に対する村長の見解を伺う。

答 村長（長浜善巳）

福祉分野での重要課題だと認識しています。特に医療や精神的な支えが重要だと考えています。また様々な複合的課題が多岐にわたるため、医療や

です。健康づくりの一環として使っていたらいい。村の対応について伺う。

答 健康保険課長（新里勝弘）

今年度の福祉まつりはコロナ禍の影響で4年ぶりの開催となり多くのブースを設けることができませんでした。新年度は、ぜひ御協力いただけたら、併せて資格者の皆様の情報提供もお願いできれば大変助かると思います。

名嘉真海岸・護岸沿い船揚場スロープに大量の砂・サンゴ砂利の堆積について

質 村の対応について伺う。

答 建設課長（屋良朝也）

名嘉真の船揚場の現場を見ました。大分砂が堆積していて船が下るせない。4月、新年度において早めに取り除いていきたい。



▲名嘉真海岸船揚場

家族などきめ細かい相談業務が必要になると考えます。

提 アルコール依存症は回復、社会復帰が可能な病気で、早期受診・早期治療が有効です。治療に関しては糸満晴明病院、琉球病院、沖縄リハビリテーション病院が取り組んでいます。また、治療後は1週間を通して県内至る所で開催されている断酒会や家族会等自助グループへの参加も重要です。改善するには本人が早い段階で治療に繋がることが重要で、周知の病気の理解が必要で、当局職員もアルコール依存症について、もっと知ることを求めます。そして適切な指導ができることを期待します。



▲沖縄県断酒会